

令和8年度

# 学校説明資料

資料の配付をもって前期の学校説明会に代えさせていただきます。

学校教育目標

**えがお なかよし チャレンジ**

- 自分のよさや可能性を伸ばしていこうとする子を育てます。 [知・体]
- 身近な人々や自然とのふれあいを大事にいこうとする子を育てます。 [徳・公]
- 自分の意思で判断し、よりよく解決していこうとする子を育てます。 [関]

## 目次

- 1 はじめに
- 2 今年度の学校の方針
  - ・中期学校経営方針
- 3 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的な取り組み
- 4 今年度の重点取組
  - ・えがお「子どもたちの安心・安全・健康」
  - ・なかよし「学校の活性化」
  - ・チャレンジ「一人ひとりの力を伸ばす」





## 令和8年度新橋小学校 学校経営について



### □はじめに

社会が多様化し、学校にはこれまで以上に幅広いニーズや価値観への対応が求められるようになってきました。また、インターネットや AI 技術の急速な発展により、子どもたちを取り巻く環境は日々変化しています。このような時代を生きる子どもたちに必要なのは、指示を待つのではなく、自ら学び、自ら行動する力であると考えます。新橋小学校では、そのような「主体的に行動する力」を育てることを大切にしていきたいと考えています。

### □学校教育目標「えがお・なかよし・チャレンジ」

- 「えがお」は、子どもたち一人ひとりが「安心できる居場所」作り。
- 「なかよし」は、仲間と共に自ら進んで学んでいこうとする「協働的に学ぶ力」の育成。
- 「チャレンジ」は、自分の力で学んでいく「主体的に学ぶ力」の育成。

### □目指す学校像

子どもにとって毎日行きたくなる学校、保護者にとって通わせたい学校、地域にとって応援したくなる学校、教職員にとって働きたくなる学校、来校者にとってまた来たい学校、そして・・・ずっと居たくなる学校。

### □令和8年度 学校経営の3つの重点

#### ① 教職員が子どもとしっかり向き合える環境づくり

～「えがお」安心できる居場所を支える基盤～

子ども一人ひとりの学びと安心を支えるためには、教職員が心身ともに安定して働ける環境づくりが欠かせないと考えます。本校では、児童支援専任2名体制を中心に、学級担任や学年との連携を強め、子どもの困り感や課題への対応を組織的に行っています。また、学校担任を位置づけ、担任不在時にも学びが途切れないよう支援する体制を整えています。会議等については目的や時間を明確にし、業務の見直しを進めることで、教職員が子どもと向き合う時間と心の余裕を担保していきます。本校の教職員の約6割は子育て世代であり、介護に携わる職員もいます。こうした実情を踏まえ、急な休暇があっても学校が安定して運営される体制を整えることが、結果として子どもたちの安心につながると考えています。子どもたちにとって、安心できる居場所があることは、挑戦したり人とかかわったりするための土台となります。令和7年度は、異学年の交流による支え合いや、学級・学年での丁寧な関係づくりを通して、安心して過ごせる環境が広がっていました。また、地域とのかかわりの中で「認められている」と実感する場面も多く見られました。

令和8年度も、こうした関係づくりを大切にしながら、児童支援専任やホッとルーム担当が、一人ひとりの安心を支えています。教職員が安心して働ける環境を整えることと、子どもたちが安心して過ごせる居場所をつくることを一体的にとらえ、「えがお」が広がる学校づくりを進めていきたいと考えています。

## ② ストーリーのある学びの展開

### ～「チャレンジ・なかよし」を生み出す学び～

授業・行事・体験・地域との出会いを、それぞれ単独の活動としてではなく、「学びたい」という気持ちがつながるストーリーとしてとらえることを大切にしていきたいと考えています。授業で生まれた疑問が校外学習での気づきへと広がり、地域の方や専門家との対話によって考えが深まり、「誰かに伝えたい」「役に立ちたい」という思いへとつながっていく—このようにして主体的な学びを生み出していきたいと考えています。学びの中で子どもたちは、課題に出会い、仲間と共に考え、試行錯誤する経験を通して、主体性や協働性を育てていきます。「自分からやってみたい（チャレンジ）」「仲間と一緒に取り組みたい（なかよし）」という思いが生まれる授業づくりを大切にしていきたいです。令和7年度は、4年生が福祉車両の学習を通して体験したことをもとに、「つながるフェス」で発信する活動へとつなげてきました。また、地域から「ともに新橋のまちを盛り上げよう！」というお声かけをいただき、「つながるフェス」に出店するなど、学びが社会へと広がる姿が見られました。6年生の「ひかりの池再生プロジェクト」では、池の環境調査を専門家とともに進め、実際の環境改善へとつながる学びを実現しました。

令和8年度も、各学年・各学級においてシーズンごとに設定する「核となる活動」を起点に、『学ぶ意味を実感する』『仲間と協働する』『学びを社会へつなげる』ことを大切にしながら、学びがつながり広がっていくことを目指します。こうした学びの積み重ねを通して「チャレンジ」「なかよし」が育つ学校づくりを進めていきたいと考えています。

## ③ 学びの可視化の質的向上

掲示物や展示、ホームページ等での発信を通して、子どもたちの学びが見える形にしていくことを大切にしていきたいと考えています。特に、どのように考えながら学びを進めていったのかという「学びのプロセス」が見える掲示・展示・発信を大切にしたいです。

令和7年度は、廊下や階段の掲示、「つながるフェス」での展示や発表、ホームページでの発信などを通して、子どもたちの学びを伝える機会が広がりました。話し合いの記録や考えの変化などを示すことで、学びの流れが見える工夫も見られるようになってきています。こうした可視化は、保護者や地域の方にとって理解を深める機会となるだけでなく、子ども自身が自分の学びを振り返ることにもつながると考えています。「どのように考えたか」「どのように変わったか」を見つめ直すことが、次の学びへの意欲につながっていきます。

令和8年度も、学びのプロセスを大切にしたい掲示・展示・発信を意識し、子どもたち自身の振り返りにつながる可視化を進めていきたいと考えています。

## □コミュニティ・スクールの強化

本校では、子どもたちの学びを中心に据えながら、地域とともに育つ学校づくりを大切にしています。令和7年度は、学びの中に地域の方がかかわる場面が広がりました。行政の方と意見を交わしながら学びを進めたり、社会福祉施設や保育園との連携の中で、相手を意識した学びが深まったりする様子が見られました。さらに、「つながるフェス」では、子どもたちが地域の方に学びを伝える中で、「応援したい」「かかわりたい」といった声生まれ、学校と地域が双方向にかかわる関係へと少しずつ広がってきています。このように、子どもたちの学びをきっかけとして地域とのつながりが深まり、共に支え合う関係が育ちつつあることを実感しています。

今後は、学校運営協議会と地域学校協働本部をより一体的に機能させながら、無理のない形でかかわり続けることができる仕組みを整えていきたいと考えています。地域の事業者や企業・団体、さらには次世代を担う若い世代の参画も視野に入れ、多様なかかわりの中で子どもたちの学びがさらに豊かになることを目指していきたいと考えています。

## □おわりに～目指す学校像に向かって～

昨年度は、各学年において主体的・協働的に学ぶ姿が広がってきました。3年生は阿久和川「まほろば」の学習において行政と協働し、自分たちの意見が実際の取組に反映される経験を積みました。5年生は保育園や社会福祉施設との連携の中で「安全で安心なお菓子づくり」に取り組み、相手の立場に立って試作をする学びを進めました。6年生は「フォトユリ」や「マネープロジェクト」の学習を通して、地域や専門家とかかわりながら学びを社会へと広げました。これらの実践に共通するのは、子どもたちが自分の思いや願いをもとに課題に向き合い、仲間と協力しながら学びを進めていったという点です。そのプロセスで得られる達成感や充実感が、自信や意欲へとつながり、「えがお・なかよし・チャレンジ」という学校教育目標が、一人ひとりの姿として表れてくるのだと感じています。

このような学びが地域へと発信されることで、「応援したい」「かかわりたい」という声生まれ、学校と地域とのつながりが深まっていくものと考えています。子どもたちの姿そのものが人と人をつなぐ力となり、地域にとっても価値ある存在となっていくと考えています。こうした子どもたちの成長は、保護者の皆様にとってもお子さんの姿を実感する機会となり、「安心して通わせたい」という思いにつながっていくと考えます。子どもたちと共に学びをつくるプロセスは、教員にとっても大きなやりがいや喜びとなり、「もっと支えたい」という意欲を生み出します。

子どもたちの主体的・協働的な学びを起点として、子どもにとって「毎日行きたくなる学校」、保護者にとって「通わせたくなる学校」、地域にとって「応援したくなる学校」、教職員にとって「働きたくなる学校」、来校者にとって「また来たくなる学校」という思いを広げていきたいです。子ども・保護者・地域・教職員それぞれがこうした思いを積み重ねていくことが、「この学校を大切にしたい」「かかわりたい」という気持ちへとつながり、“ずっと居たくなる新橋小学校”を形づくっていくのだと考えています。

# 今年度の学校の方針

横浜市立 新橋小学校

令和 7 - 9 年度版 中期学校経営方針 (令和 8 年度修正)

学校教育目標	「えがお なかよし チャレンジ」 ○自分のよさや可能性を伸ばしていこうとする子を育てます。 ○身近な人々や自然とのふれあいを大事にしていこうとする子を育てます。 ○自分の意志で判断し、よりよく解決していこうとする子を育てます。		【知・体】 【徳・公】 【開】
	学校概要	創立 55 周年 学校長 内田 宏 副校長 大賀 あゆみ 児童生徒数: 505 人 主な関係校: いずみ野中学校、いずみ野小学校	学期制 一般学級: 18 個別支援学級: 5

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	いずみ野中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自分づくりに関する力 ～なりたい自分を見つける力～	いずみ野中学校 いずみ野小学校	「夢の実現に向かって」 ・学びの目標の実現に向かって、挑戦し続ける子ども・自他の違いを認め、進んで人とかわられる子ども・自尊心を高め、自信をもって生きていく子ども 小・小・小中での授業研究や職員間の交流を通して、9年間で育成を目指す資質・能力の共通理解を図り、つながりのある小中一貫教育の推進を行う。①児童生徒一人ひとりの理解や情報交換の充実を図り、9年間つながりのある個に応じた教育の継続 ②各教科における授業のつながりと一人ひとりの特性を意識した指導内容の充実

中期取組目標	○「えがお なかよし チャレンジ」の実現に向け、地域と学校の連携を図りながら全職員がチームとなり、活力と魅力にあふれた地域から信頼される学校づくりを目指します。 ・学ぶ楽しさが実感できる授業づくりを推進し、学力向上に努めます。 ・身近な人やまちとのつながりを大切に、豊かな体験を通してまちを愛する心を育てます。 ・一人ひとりが安心して自分らしさを発揮しながら学校生活に主体的に参画し、楽しい学校生活を送れるようにします。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
知 学習指導	①一斉テスト(年2回)の実施や、新橋小講座などを通じた職員研修によって、児童が自ら目標に向かって粘り強く基礎基本の力を高められるようにする。②毎月の研究部の会議で、タブレット端末の活用について情報交換を行い、各学年に伝えることで、タブレット利用に関して、指導の統一を図る。その上で、デジタルドリルを含む、自分を取り組む課題や解決方法を選べる力を育てる。③学校司書や県図書館、委員会活動等と連携し、読書に親しめる環境を作る。(ONEの会の読み聞かせ、感想文・感想画への取組、はまっ子読書週間、国語を中心とした教科での活用等)
徳 道徳教育 人権教育	①たてわり班活動や幼保小連携を中心に、子どもたちの考えを生かしながら異学年交流を工夫して実施する。②自分づくりパスポートで、自分自身を定期的に見つめ直し、自分の頑張りや自分の良さについて気付けるようにする。③社会福祉法人びぐれっととの交流を継続することにより、人権教育の充実を図る。④横浜プログラム(Y-Pアセスメント、指導プログラム)を活用して、より良い人間関係を構築する機会を設ける。
体 健康教育	①健康診断や体力・運動能力調査の分析に基づいて、年間を通して児童が体を動かせる機会を設けたり、日常の体育科授業を改善したりすることを通して、児童が体を動かすことの楽しさを感じられるようにする。②健康(生活安全・保健・給食)について子どもたちと話し合いながら年間を通して継続的に健康的な生活について意識を高め、自ら健康を保持増進しようとする姿勢を培う。③栄養士と連携しながら家庭科や特別活動、総合的な学習などで食育を実施し、食への関心を高める。
公開 自分づくり教育	①生活科や総合的な学習の時間、社会科などの教科で、児童が地域とかかわる活動を計画的にもてるように職員研修を行う。②校内に担当者を設置し、地域コーディネーターの方と年度初めに顔合わせを行い、地域や団体と関わる機会を作る。
いじめへの対応	①毎月のいじめ防止対策委員会の開催を通して職員間の情報共有をスムーズに行う。②児童指導情報共有フォルダの活用で定期的な情報共有の場を待たずに情報の共有を可能とする。③いじめ防止研修で未然防止・チーム対応の意識を高める。④生活アンケートや教育相談の実施で児童の声を積極的に聞く。
人材育成・ 組織運営(働き方)	①3部会を運営組織の柱に効率的に会議を進めるとともに、ICTを活用して情報の共有化を進め、組織的な働き方改革につなげていく。②メンターチームを活性化させ、授業研究や実践提案を通して、教師として必要な実践力を高める。③指導力や危機管理対応能力、ICT活用能力など、学校に求められている教師の力量を高めるために、校内研修を計画的に実施していく。
地域学校協働活動	学校運営協議会を定期的に開催し、学校経営方針を地域に周知するとともに、地域からのよりよい意見を学校経営や教育活動に生かしていく。学校運営協議会に教職員が積極的に参加することで、より地域に根ざした学校経営・教育活動の推進・充実を図る。
担当	教務
担当	
担当	
担当	
担当	

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

- 「えがお なかよし チャレンジ」  
 ○自分のよさや可能性を伸ばしていこうとする子を育てます。 【知・体】  
 ○身近な人々や自然とのふれあいを大事にしていこうとする子を育てます。 【徳・公】  
 ○自分の意志で判断し、よりよく解決していこうとする子を育てます。 【開】

教育課程全体で  
育成を目指す資質・能力

自分づくりに関する力  
～なりたい自分を見つける力～

具体化した資質・能力

- 意思決定する力 ○自分らしさを発揮しようとする姿勢  
 ○他者を理解する態度・自己を理解する姿勢  
 ○身近な地域への愛着 ○主体性・積極性

中期取組目標

- 「えがお なかよし チャレンジ」の実現に向け、地域と学校の連携を図りながら全職員がチームとなり、活力と魅力にあふれた地域から信頼される学校づくりを目指します。  
 ・学ぶ楽しさが実感できる授業づくりを推進し、学力向上に努めます。  
 ・身近な人やまちとのつながりを大切に、豊かな体験を通してまちを愛する心を育てます。  
 ・一人ひとりが安心して自分らしさを発揮しながら学校生活に主体的に参画し、楽しい学校生活を送れるようにします。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
学習指導	①一斉テスト(年2回)の実施や、新橋小講座などを通して職員研修によって、児童が自ら目標に向かって粘り強く基礎基本の力を高められるようにする。②毎月の研究部の会議で、タブレット端末の活用について情報交換を行い、各学年に伝えることで、タブレット利用に関して、指導の統一を図る。その上で、デジタルドリルを含む、自分が取り組む課題や解決方法を選べる力を育てる。③学校司書や泉図書館、委員会活動等と連携し、読書に親しめる環境を作る。(ONEの会の読み聞かせ、感想文・感想画への取組、はまっ子読書週間、国語を中心とした教科での活用等)
担当	研究部

学力向上に関わる本校の状況
<p>(1)学力向上に関わる児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○概ね市の平均程度の学習への意識が認められる。</li> <li>○R7年度横浜市学力・学習状況調査の結果(国語・算数)では、横浜市平均を下回る学力レベルになっている学年が多い。</li> <li>○R7年度全国学力・学習調査の結果(国語・算数・生活意識調査)では、以下の状況が見られた。</li> <li>・国語の教科において、目的に応じて話す際、伝える内容を考えている児童の割合は県の平均より5%以上高い結果だった。</li> <li>・理科では、観察や実験を通して、思考しながら楽しんで学習に向かう意識が国や県の平均よりも高く見られた。</li> <li>・算数では、「数と計算」図形「測定」共に、平均より低く、日常生活とのつながりを意識できる児童の割合は低かった。</li> <li>・タブレット端末を活用して、自分の考えや意見を分かりやすく発表していた割合は、約7割だった。</li> <li>○基礎、基本的な学習の定着に課題が見られる学年には、学力の底上げに取り組む必要がある。</li> <li>○主体的に学びに向かうとする態度を今後育成するために、児童が必要感をもって学習できるような授業改善が継続して必要である。</li> <li>○職員研修として「新橋小講座」に取り組み、子どもたち一人ひとりがめあてをもち、粘り強く学習に向かう態度を育めるよう授業力向上を目指している。</li> <li>○R7年度横浜市学力・学習状況調査の結果(生活意識調査)より、「学校図書館に行くことが好きですか」という質問に対して、「好き・どちらかといえば好き」と回答する児童の割合が多い。</li> </ul> <p>(2)これまでの学校の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○デジタルドリルを活用し、理解度や個々の状況に応じて内容を選んで実施し、学習の定着を目指した。</li> <li>○一斉テストでは、年2回のテスト(漢字と計算)を行った。事前に問題を提示し、練習を行うことで、目標をもって粘り強く学習に向かえるように配慮した。</li> <li>○横浜市学習状況調査の結果を受け、各学年の学力の分析を行い、次年度の指導へ行かせるよう、引継ぎを行った。</li> <li>○年間を通して、学校司書や泉図書館、委員会活動、読み聞かせボランティアの会等と連携し、読書に親しめる環境づくりや本を学習に活かせるための取組を行った。</li> </ul>

今年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>○一斉テストや新橋小講座などの職員研修を通して、児童が自ら目標に向かって粘り強く取り組める態度を育成する。</li> <li>○情報共有をして、タブレットを安心して効率的に活用できるようにし、児童が自分の学習課題やその解決方法を選べる力を育てる。</li> <li>○学校司書や泉図書館、委員会活動等と連携し、児童が読書に親しめる環境を作る。</li> </ul>

目標を実現するための具体的行動プラン
<p>上半期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○研究部の地域担当者や地域コーディネータの顔合わせを行ったり、研究部内でも情報交換を行ったりと、学年と連携を取りながら、年間を通して地域と関わっていく計画を立てる。</li> <li>○個に応じた学習を進めるために、授業づくりなどの校内研修を計画し、教員の授業力の向上を目指していく。</li> <li>○デジタルドリルを活用して、学習状況に応じた内容に取り組むことで、基礎学力の定着を図る。</li> <li>○児童一人ひとりが自分の目標を立て、努力を重ねていくことができるようにするために、一斉テストでは、「自分の目標点数」を事前に設定する。その目標に向かってどのように取り組むかを児童が個人で考えられるようにしていく。また、一斉テストの結果を受けて、児童自身が意欲的に学習に向かえるようにしていく。</li> <li>○児童が安心して図書室を利用できるようにするために、年度初めに、全学年で図書室の使い方についてオリエンテーションを行う。</li> <li>○外遊びが制限される梅雨の時期に、国語クイズや低学年への読み聞かせ活動などを委員会が主体となって行い、本に親しめる機会を設ける。</li> <li>○GIGAスクール構想のもと、自ら主体的に情報を集めて、自分の考えを発信できる力を養うためにタブレットを効果的に用いた学習活動を行う。</li> <li>○児童・職員が安心してタブレット利用ができるよう、年度の初めにガイダンスをする。</li> </ul> <p>下半期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の実態に合わせて授業改善を行うために、横浜市学力・学習調査の結果を分析する。</li> <li>○児童が本に親しめる機会を多く設けるために、年間を通して図書ボランティア「ONEの会」による読み聞かせを行う。また、「はまっ子読書週間」では、委員会活動発信のもと、「ペア読書」等の取り組みを行う。</li> <li>○学習の中で関連読書を行うなど、学校司書や地域図書館と連携して、図書活動を充実させる。</li> <li>○GIGAスクール構想のもと、タブレット活用方法の振り返りを行い、児童の発達段階や教育的ニーズに合わせたタブレット学習になるようにする。</li> <li>○児童一人ひとりが自分の目標を立て、努力を重ねていくことができるようにするために、前期と同様に一斉テストでは、「自分の目標点数」を事前に設定する。その目標に向かってどのように取り組むかを児童が個人で考えられるようにしていく。また、一斉テストの結果を受けて、児童自身が意欲的に学習に向かえるようにしていく。</li> </ul>

## 豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育 人権教育	①たてわり班活動や幼保小連携を中心に、子どもたちの考えを生かしながら異学年交流を工夫して実施する。②自分づくりパスポートで、自分を定期的に見つめ直し、自分の頑張りを自分の良さについて気付けるようにする。③社会福祉法人びぐれっととの交流を継続することにより、人権教育の充実を図る。④横浜プログラム(Y-Pアセスメント、指導プログラム)を活用して、より良い人間関係を構築する機会を設ける。
担当	総務部

豊かな心に関わる本校の状況
<p>(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態</p> <p>○横浜市学力・学習状況調査の生活意識調査では「自分にはよいところがあると思いますか」の項目で8割前後の児童が肯定的な回答をしており、横浜市の平均とほぼ同等である。また、「相手の気持ちになってその人の気持ちを考えるようにしていますか」「将来の夢や目標がありますか」の項目では、全学年で8〜9割の児童が肯定的な回答をしており、特に高学年で市の平均よりも「そう思う」と答えた児童の割合が多くなっている。</p> <p>○Y-Pアセスメントでは、自分と向き合ったり素直に自己表現したりできる児童が多い。一方で、自分と相手の感じ方の違いを受け止められないことが課題である。困ったり、助けが必要だったりする相手に対して、関わりの方をどのようにしていけばよいのかに悩み、適切な行動に移せない傾向がある。</p> <p>(2)これまでの学校の取組状況</p> <p>○たてわり班活動では、年間を通して予定通りの回数を行うことができた。また、昨年度に続き全校遠足も実施することができ、全校異学年のたてわり班に参加することができた。</p> <p>○年間を通して、人権教育に取り組むことができた。具体的には、社会福祉法人びぐれっととの交流を全学年で行った。また、小中ブロックで共通の取組であると確認した「笑顔を増やす」をテーマにした活動に取り組んだ。ペア学年との集会和ほかほかメッセージの交換、ペア読書、ボカボカランニングなどの活動を通して、人権意識や相手意識を高めた。</p> <p>○横浜プログラムの活用研修を行い、Y-Pアセスメントを学級把握の客観的資料とし、学年や学級の実態を把握できるようにした。その実態に合わせたプログラムを年2回は実施できるように校内での推進を図ってきた。</p> <p>○幼稚園・保育園との交流を、学年の実態にあわせて実施することができた。</p>

今年度の目標
<p>○たてわり班活動やペア学年での活動を通して、異学年交流や人権週間の具体的な実践を通して、他者を理解しようとする態度を育成する。</p> <p>○道徳の時間の学習や横浜プログラムの取組、自分づくりパスポートによって自己を振り返り、理解しようとする姿勢を育む。</p>

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<p>○安心してたてわり班活動に入ることができるよう、教職員で児童理解研修を行い児童の姿を共有する場を設ける。</p> <p>○学校生活でも様々な活動を通して他者とのつながりを意識できるようにするために、ペア学年での取組を進める。</p> <p>○自分自身を見つめ、学校生活をよりよくしていくようとする態度を育てるために、定期的に自分づくりパスポートで振り返ることができるようになる。また、自分づくりパスポートの書式を検討し、充実した振り返りができるようにする。</p> <p>○学校外部の方々との関わりをもつて他者理解を深めるために、職員全体で研修を行い、各学年ごとに地域の施設である社会福祉法人びぐれっとと交流する計画を立てる。</p> <p>○子どもたちに必要な社会的スキルを育むために、Y-Pアセスメントを実施し、横浜プログラムの活用について話し合い、子どもたちの困り感に全職員で寄り添えるようにする。</p> <p>○子どもたちが主体的に取り組むことができるように、近隣の幼稚園・保育園との交流計画を立てる。</p>
下半期	<p>○異学年交流を深めるために、たてわり班活動での全校なかよし遠足や6年生のお別れ会を行う。また、活動内容を精選し、学年ごとの役割を明確にすることで、年度が変わっても継続的に活動に取り組めるようにする。</p> <p>○人権意識を高めて他者への理解を深めるために、ほかほかメッセージ、横浜子ども会議に関連した思いやり活動を行う。</p> <p>○道徳の授業だけでなく、日常の生活場面において子どもたちが互いを認め合い、助け合うことができるようにするために、学年・学級の中でそのような場を積極的に設ける。</p> <p>○学校外部の方々との関わりをもつて他者理解を深めるために、各学年ごとに地域の施設である社会福祉法人びぐれっとと交流をする。</p> <p>○子どもたちに必要な社会的スキルを育み、集団理解を深めていくために、Y-Pアセスメントを実施し、横浜プログラムの活用をする。上半期と同様に、全職員で子どもたちの困り感に寄り添えるよう、姿容を見取ったり、複数の職員で共有したりしていく。</p> <p>○新入生が安心して入学できるように、近隣の幼稚園・保育園と1年生・5年生を中心に交流を行う。</p>

## 健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①健康診断や体力・運動能力調査の分析に基づいて、年間を通して児童が体を動かせる機会を設けたり、日常の体育科授業を改善したりすることを通して、児童が体を動かすことの楽しさを感じられるようにする。②健康(生活安全・保健・給食)について子どもたちと話し合いながら年間を通して継続的に健康な生活について意識を高め、自ら健康を保持増進しようとする姿勢を培う。③栄養士と連携しながら家庭科や特別活動、総合的な学習などで食育を実施し、食への関心を高める。
担当	指導部

健やかな体に関わる本校の状況
<p>(1)健やかな体に関わる児童の実態</p> <p>○体力・運動能力の総合値は、横浜市の平均かややそれより高い数値となっている。</p> <p>○実施種目の中では、各学年により傾向は異なるが、市の平均を下回る項目が複数ある。令和7年度は、「握力」や「ボール投げ」「長座体前屈」で下回る学年が多かった。</p> <p>○生活実態の総合値は、横浜市の平均かやや高い数値となっている学年が多い。(平均以下は、4年男子・4年女子・3年男子のみ)</p> <p>○「朝食の有無」の項目では、全学年において、「毎日食べる」の児童が市の平均を上回っている。</p> <p>○「体を動かすことが好きか」と「自分からすすんで、運動やスポーツをする時間をもちたいか」の2項目では、ほとんどの学年で市平均がそれよりも高い数値になっていて、多くの子どもが運動に対して意欲をもっている。</p> <p>○歯科保健においては、健診結果から歯磨き率は22%で例年同程度での推移となっている。歯科保健事業の歯みがきチェックでは本人判定が81%と前年度より改善し丁寧な歯みがき習慣の定着がみられる。</p> <p>○給食残食量調査の結果は野菜類、魚類、牛乳の残量が多い。</p> <p>(2)これまでの学校の取組状況</p> <p>○運動委員会が中心となつての「ほかほかランニング」、自由参加制の「なわとびチャレンジ」などに取り組んだ。</p> <p>○クラス使用のボールを配当した。</p> <p>○体育部を中心に、運動能力についてや指導方法の情報発信や助言を行い、体育科の授業改善を行ってきた。</p> <p>○新橋けんこう週間(学校保健委員会)では「新橋 健康アップ大作戦」を全校のテーマとし、各クラスの健康課題を踏まえたけんこう目標を設定して、1年間を通して課題に向けての取組を実施した。</p> <p>○6月に歯科衛生週間として給食後のぶくぶくうがいと歯みがきががんばりカードの実施、10月に歯科衛生士による歯科巡回指導を行った。</p> <p>○食育体験活動の実施 成むき等体験活動(1年・2年・3年・個別版)、マリス食育前講座(2年)、味覚の授業(5年)、バイキング給食(6年)</p>

今年度の目標
<p>○日常的に体を動かせるような機会を設定し、体力の向上や運動習慣の定着を図りながら、児童が体力を高めるよきを感じたり、体を動かすことが好きになったりできるようにする。</p> <p>○児童一人ひとりが健康な生活や食生活について具体的な実践を考えることで自身の生活習慣をふり振り返り、主体的に健康を保持増進しようとする態度を育成する。</p>

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<p>○児童が安全に楽しく体を動かせるために、運動の種類や用具によって場所や時間を明確にする。(短欄については、学年児童数相当の本数を生かし、授業だけでなく(休み時間にも使用できるようにする。)</p> <p>○天候に左右されずに、体を動かす環境をつくるため、休み時間の体育館開放を積極的に行う。全校児童に機会を保障するために、ローテーションを組んで活用する。</p> <p>○児童が体を動かすことをより好きになれるよう指導の工夫や研究会での授業実践事例を取り上げて、体育部から校内実技研修やメンター研、ミライム提案を通じて紹介していく。</p> <p>○年間を通じた体力向上の活動になるよう、委員会を中心にして計画を整理する。「なわとびチャレンジ」「ほかほかランニング」</p> <p>○月毎の生活目標を一新し、新橋けんこう目標(生活安全・保健・給食)として一年間を4つの期間に分け、それぞれの短期目標に向けて行動習慣の定着を図り、さらにその定着を積み上げていくことにより年間目標の達成を目指す。</p> <p>○新橋けんこう目標に向けた学級での重点的な取組を「新橋けんこうチャレンジ」と位置づけ、学年の実態に応じ設定した重点目標を意図した行動習慣が定着するようにする。8月と9月に全校で共有できる機会を設け、定期的に振り返りながら、継続性のある取組にする。全校での共有の場面で保健委員会の児童が推進役として活躍できるようにする。</p> <p>○歯科衛生週間を定例化し、歯みがき習慣の確立と適切な歯みがき方の習得ができるよう取組みを行う。</p> <p>○朝食を取ることの大切さを伝えるために、児童や保護者に周知する機会を設ける。</p> <p>○食への関心を高めるために、家庭科の学習で栄養士と連携したり、食に関する体験活動を実施したりする。</p> <p>○バランスよく栄養をとることの大切さを伝えるために、「まじく(だより)」クイズを作成し、食べ物の働きや食品の知識を知らせる。</p>
下半期	<p>○日常的に体を動かす動機につなげるために、体育委員会を中心とした「ほかほかランニング」の計画や、「なわとびチャレンジ」などの運動を継続的に行う。</p> <p>○運動習慣や生活意識を継続的に振り返ることができるようになるために、横浜市体力・運動能力調査の記録を体づくり運動等、体育の授業改善に生かす。</p> <p>○新橋けんこうチャレンジを12月と3月に設定し、行動習慣の定着を振り返りながら、新橋けんこう目標(生活安全・保健・給食)の年間目標に向けて取組をレベルアップ、ブラッシュアップさせていく。3月には1年間の取組の成果を振り返り、さらに実践を継続していく意欲に繋げる。</p> <p>○歯みがきやバランスのとれた食生活等の生活習慣の実践に向けて、歯科巡回指導(歯と口の健康チェック)を実施し、結果や歯科衛生士の所見等を保護者に周知することを通して家庭との連携を図っていく。</p> <p>○食事の基本的なマナーや衛生面で大切なことを定着させるために、給食時間や学級活動を活用して計画的に食育の指導を進める。</p> <p>○給食週間を実施し、給食委員会が中心となって食べる事への関心や、感謝の気持ちを高める。</p>

# 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的な取り組み

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組
		年間
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆人・こと・ものへの好奇心</li> <li>◆学校の約束を守る気持ち</li> <li>◆主体性・積極性</li> <li>◆身近な地域への愛着</li> <li>◆社会生活の中での協調性</li> <li>◆自分のことを好きである気持ち</li> <li>◆身近なことについて様々な情報を収集する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の生活や学習のルールを伝え、学校での正しい過ごし方について日常的に指導していく。</li> <li>・生活科などでは、身近な自然や人と繰り返し関わりながら、興味関心を高め、具体的な活動や体験を通して気付いたことや楽しかったことについて考え、諸感覚を使って表現することができるようにする。</li> <li>・話している人の方を向いて聞くことや、相手に伝わるように話すことを意識することで、伝え合うよさを味わえる経験を積み重ねられるようにする。</li> <li>・できるようになったことをほめたり、価値づけたりすることで、児童が自己有用感を高め、自分を進んで表現しようとする意欲を高める。</li> <li>・情報を扱うための約束を守ることや、身近なことについて情報を収集する経験を積む。</li> <li>・身の回りには、プログラミングされているものがあることを知る。</li> </ul>
2年		
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自分のことを好きである気持ち</li> <li>◆他者を理解する態度・自己を理解する姿勢</li> <li>◆課題対応力</li> <li>◆意思決定力</li> <li>◆学校生活へ参画する力</li> <li>◆伝え合うことで自分の考えを深化させる力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちしらべや社会科見学を通して、地域の特色や地域の人の思いに気付かせる。</li> <li>・総合的な学習の時間では、生き物・食・まちづくり・福祉など、現在のまちが抱える課題や新橋・弥生台の特色に応じた課題について、地域の人々と関わりながら、体験的・問題解決的な学習活動を行っていく。</li> <li>・宿泊体験学習や校外学習の計画や運営体験を通して、友だちと協力しながら行事を進める大切さについて気付くようにする。</li> <li>・個に応じた指導を効果的に行い、一人ひとりが得た達成感を、更に次の学びに繋げながら学習を深める。</li> <li>・目的を意識して情報を活用したり、自分や周りの人の情報を大切に扱う気持ちをもったりする</li> <li>・身の回りの生活の中で、プログラミングが活用されていることを知る。</li> </ul>
4年		
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自己を客観的に見る力</li> <li>◆課題に対応する力</li> <li>◆学校生活へ参画する姿勢</li> <li>◆伝え合うことで自分の考えを深化させる力</li> <li>◆自分の良さに気付く力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の見直しをもち、適切な場のもとで学んだ事を友だちと伝え合うことで、よりよい考えをさらに生み出すようにしていく。</li> <li>・自分と他者との考え方の違いを受け止めながら、自分の考えを深め友だちに表現する活動を重視していく。</li> <li>・総合的な学習の時間では、課題解決や探求的な活動を重視する。互いに教え合い学び合う活動や地域の人との意見交換など他者と協働する学習活動を重視し、まとめ方も工夫していく。</li> <li>・いろいろな人と関わりながら、自分の生き方を振り返り、これからの生き方について考えたり、課題をもとに次の目標を設定したりできるようにする。</li> <li>・委員会活動やたてわり班活動を通して、学校全体をうまくまとめるためには、どうすればよいか考えることができるようにする。</li> <li>・教科担任制による指導のもと、一人ひとりが自分の問いや、めあてをもち、適宜振り返りをしながら、自分の学びを深めようとする意欲を高める。</li> <li>・様々な情報を活用したり選択したりして、自分の考えを適切に表現する力を高める。</li> <li>・日常生活や社会において、プログラミングが活用され、便利になり、様々な問題を解決していることを知る。</li> </ul>
6年		
個別支援学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自分のことを好きである気持ち</li> <li>◆人・こと・ものへの好奇心</li> <li>◆社会生活の中での協調性</li> <li>◆自分らしさを発揮しようとする姿勢</li> <li>◆課題に対応する力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の能力に応じて、必要な取組を行うようにする。</li> <li>・集団の中で、自分らしさを発揮できるような場面を設定していく。</li> <li>・子どもたちが集中して学習に取り組むことができるように環境の整備を行う。</li> <li>・栽培活動、交流活動などの生活に基づいた活動を通して、コミュニケーション能力や生活場面で活用できる力を身につけるようにする。</li> <li>・情報を扱うための約束を守る気持ちをもつ。</li> </ul>

## 重点的な3つの取組

### \*えがお：子どもたち一人ひとりが「安心できる居場所」づくり

#### ○誰もが安心して

- ユリノキスタンダードに基づいた生活ができるようにする。
- 各家庭に『家庭生活の手引き』を配信する。
- 生活アンケートから子どもたちの困り感を見つけられるようにする。
- 避難訓練や各種安全教室の開催で、安全について知る機会をつくる。
- ホットルームの運用を通して、子どもたち一人ひとりに応じた居場所を生み出す。

#### ○こころも体も元気よく

- 新橋けんこうチャレンジを中心に、年間を通して「安全で健康な学校生活」に必要な行動を考え、意識し、取り組むことができるようにする。
- 栄養職員と各学年が連携し、食教育に取り組む。
- なわとびチャレンジやぼかぼかランニングを通して体力づくりに取り組む。
- 中休みのボールなどの貸し出しの充実を図り、体力向上努める。

#### ○どの子どもにもできる喜びを

- 学習環境のユニバーサルデザイン化で安心感をもって学習に取り組む。
- 個に応じた支援で自信をもって学習に取り組む。



ぼかぼかランニング



そら豆のさやむき



とうもろこしの皮むき



新橋けんこう週間／クラスの健康目標への取り組みと振り返り

## ＊なかよし：仲間と共に自ら進んで学んでいこうとする

### 「協働的に学ぶ力」の育成

○幼保小の交流を通して他者を理解しようとする態度を育てる。

- ・1年生・5年生がそれぞれ年長児と交流する。

○たてわり班やペア学年による異学年交流を推進する。

- ・ペア学年や異学年で学習や行事を通じた交流を行う。
- ・ペア学年やたてわり班での集会や全校遠足を実施する。

○互いの良さや違いを認め合う

- ・人権チャレンジの取組（社会福祉法人ぴぐれっととの継続的な交流、ぽかぽかメッセージ）から、自他を大切に作る心を育てる。
- ・「自分づくりパスポート」の記入を通して、行事や日々の生活を振り返り、自らの成長を感じられるようにする。



### 幼保小交流



全校遠足での異学年交流の様子



社会福祉法人「ぴぐれっと」との交流の様子

## \*チャレンジ：自分の力で学んでいく「主体的に学ぶ力」の育成

○基礎的・基本的学力の向上を図る

- ・一斉計算・漢字テストの実施
- ・デジタルドリルの活用

○自己選択・自己表現できる子の育成をする

- ・職員研修による授業力の向上
- ・体験的・探究的な活動の充実

○読書活動を推進していく

- ・はまっこ読書週間の取り組み
- ・「ONE の会」（読書ボランティア）、泉図書館等との連携

○地域をフィールドにした学習を展開する

- ・意欲をもって地域の場で学べるような出会いをコーディネートする。
- ・ホームページ等で学校での子どもの様子や地域とかかわる子どもの学びを発信する。



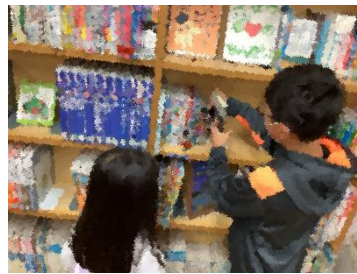
タブレット端末の活用  
～デジタルドリルの活用～



地域をフィールドにした学習  
たけのこ掘り



体験的な活動の充実  
～ユリノキタイム～



はまっこ読書週間 ペア読書  
たてわりペアと本選び



「ONE の会」の読み聞かせ